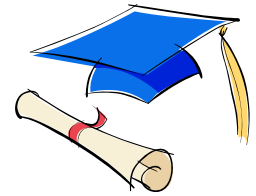


平成19年度 第3回教育制度等専門部会

まとめ

- 第1回教育制度等専門部会 (6月28日)
- 第2回教育制度等専門部会 (7月12日)



今後の基本的な方向

- 三条市の進める小中一貫教育
- 期待される効果
- 実施に向けての課題

三条市教育委員会

第1回教育制度等専門部会の主な意見

検討項目

1 小中一貫(連携)教育

- ① 学力向上
- ② 生徒指導の充実
- ③ 教職員の意識改革
- ④ その他

1—① 学力向上

- **小学校の5年生から中学校1年生**の時期（中期）が大きなポイントである。
- 系統性のある**英語、算数・数学**の指導が大事である。
- 学力向上と教職員の意識改善は**表裏一体**である。

1—② 生徒指導の充実

- 9年間を見通した**小中一貫した生徒指導**を展開することでいじめ・不登校等を減少させる。

1—③ 教職員の意識改革

- 枠組みを変えないまま指導力をあげようとしてもうまくいかない。**ハード（6・3制→4・3・2区分）を変えて、ソフト（教師の意識改革）を変えやすくすることが大切である。**
- 教師の**多忙化解消**も考えなくてはならない。新しい制度を実施した初めの段階では、アシスタント的な補充も大切である。

1—④ その他

- 幼稚園・保育所から高校まで**一貫した教育観**が必要である。

第2回教育制度等専門部会の主な意見

検討項目

- 2 三条市の教育資源を活かした教育活動
- 3 学期制の検討
- 4 学校の建て直しと統廃合計画

2 三条市の教育資源を活かした教育活動

- 小中9年間で**計画的・系統的に三条の歴史、文化、自然、地域の暮らしの変遷**などを学び、自分なりの夢や希望を持たせる取組が大切である。
- 「ものづくり」や「科学教育」など**市全体で考えることと、学校教育で考えること**と両方を考えていくほうがよい。
- 特色ある教育活動を行うためには、地域の特色や実態を踏まえた学習の展開が必要であり**弾力的な運用のあり方**を考えてほしい。

3 学期制の検討

- 現段階では、時数確保や学びの連続・つながりは各学校の工夫でクリアできる。当分の間は現行の**三学期制**を継続していく。
- **授業時数増**は、長期休業の有効活用や週時数の見直しを基本に各学校で子どもの**発達段階**を考慮し実施していく。

4 学校の建て直しと統廃合計画

- **小学校12学級以上・中学校9学級以上**というのは、このぐらいの人数が望ましいということである。
これを三条市の原則とし、地理的条件や施設等に応じて弾力的に考えていく。

◎ 専門部会のまとめ

- 三条市の教育課題を解決するためには、**小中一貫教育を実施し、教職員の意識改革を図りやすく**する必要がある。
- 小中一貫教育を行うなかで、三条市の**教育資源を活かした学習を充実させ、三条市に愛着と誇りを持たせる**必要がある。
- **学校規模はある程度の規模があった方が効果的**であるが、**地理的条件や施設等考慮して弾力的に**考えていく必要がある。

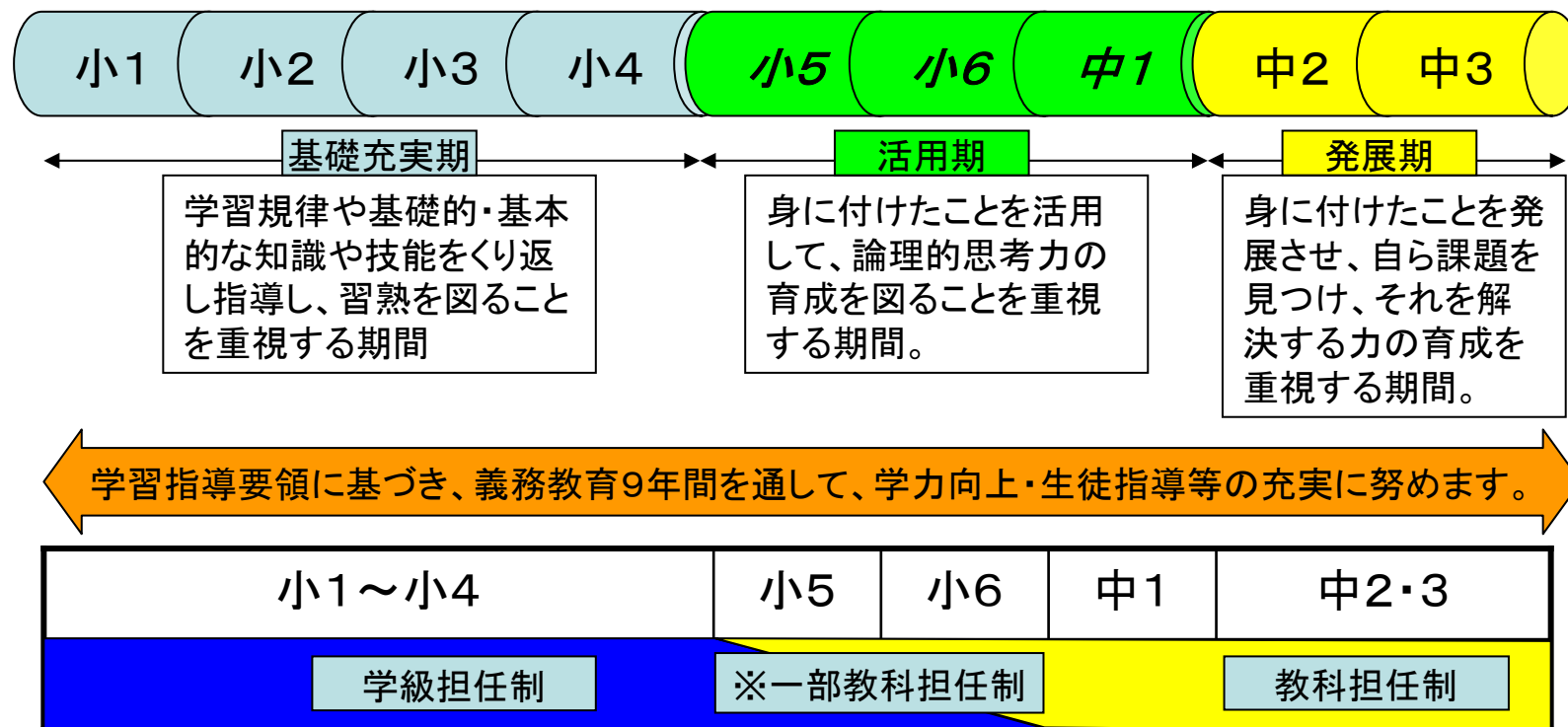
◎ 今後の基本的な方向

- 幼稚園から高校まで一貫した教育が大切であるが、特に小学校5年生から中学校1年生までの期間が大切である。まずは、**三条市の小中学校に小中一貫教育を導入**する。
- 小中一貫教育の導入にあたっては、施設面、適正規模の面等から、校舎の老朽化や地域性等を考慮しながら、**年次的に順次導入を検討**する。
- 三条市の**教育資源を活かした系統的な学習を展開**し、自分の将来に夢や希望をもち、三条に愛着と誇りをもつ子どもを育てる。

※中央教育審議会答申、学習指導要領の改正等の今後の国の動向を踏まえ英語や地域学習の進め方、授業時数増などについて随時検討を加えていく。

三条市の進める 小中一貫教育(案)

三条市が進める小中一貫教育とは**6・3制を弾力化**し、9年間を**4・3・2の3つに区分**し、小学校と中学校との**教育課程の連続**を図り、児童生徒の心身の発達に応じた教育を行うことです。



小中一貫教育実施のための準備(案)

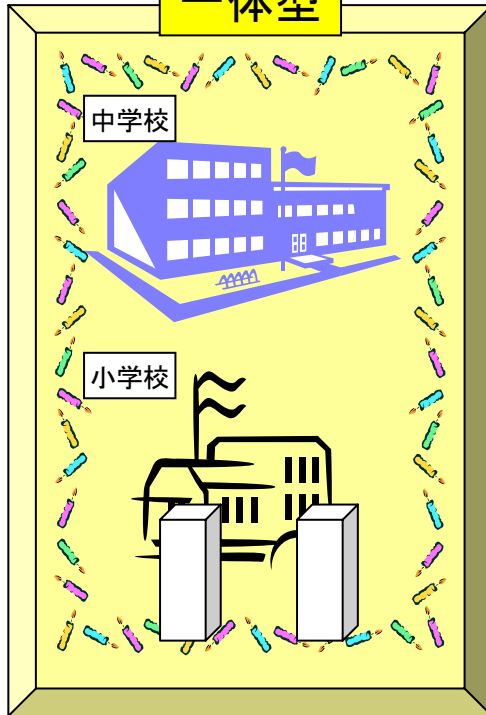
年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度～
事業全体	<ul style="list-style-type: none"> ・小中一貫教育推進委員会の設置 ・小中一貫教育モデル校の指定 ・小中一貫教育推進室の設置 	<ul style="list-style-type: none"> ・小中教職員による相互乗入れ授業の一部実施 ・小学校英語教育の一部実施 	<ul style="list-style-type: none"> ・小中交流活動の全面実施 ・小中一貫教育モデルプランの完成 	<ul style="list-style-type: none"> ・相互乗入れ授業、小学校英語教育の全面実施 	<ul style="list-style-type: none"> ・小中一貫教育の全市導入(完全実施)
モデル校	<p>＜第一中学校区、第三中学校区＞</p> <p>プログラム開発・修正</p> <p>研究会の開催</p> <p>モデル校の試行実施</p>				<p>全中学校区で実施</p>
モデル校以外の小中学校	<p>プログラム開発・修正</p> <p>実践交流会の開催</p> <p>希望する中学校区で試行実施</p>				

・各教科・領域の系統的な9年間の指導計画の作成
 ・地域性を活かした系統的なものづくり教育プランの作成

・地域性を活かした系統的なものづくり教育プランの作成

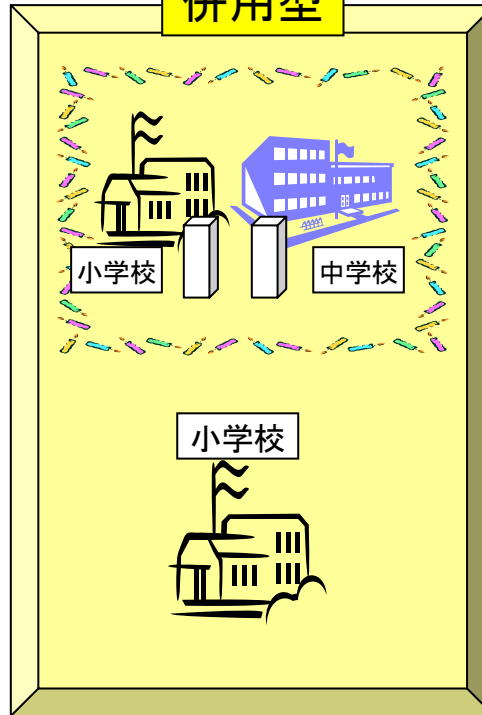
小中一貫教育のモデル

一体型



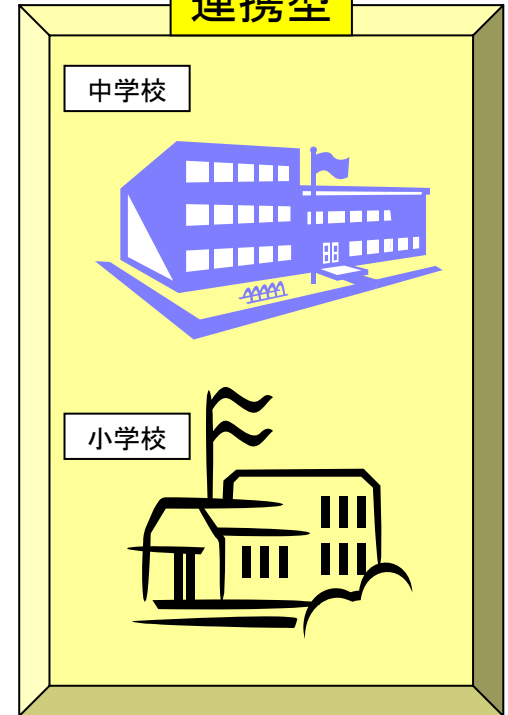
同じ施設で、小学校1年生から中学校3年生(9年生)が共に学校生活をおくる。

併用型



近隣の小学校と中学校で5・6年生が**中学校の校舎**で生活したり、週に何時間か小学生が**中学校で学習**する。

連携型



近隣の小学校と中学校で**校舎は別々**で教師や児童生徒が移動して学習する。

三つのモデルの比較

小中一貫教育を進める上で、課題解決のしやすさや活動のやりやすさを比較して評価したもの

◎:大きな効果有り ○かなり効果有り △効果有り ×効果無し

	一体型	併用型	連携型
教職員の意識改革	◎	○	△
教育目標の共有	◎	○	△
学習指導上の連携	◎	○	△
生徒指導上の連携	◎	○	△
系統的な地域学習	◎	◎	◎
教師・児童生徒の移動	◎	○	△
行事の連携	◎	◎	○

※「連携型」→「併用型」→「一体型」を目指す。

小中一貫教育で期待される効果

1. 学力向上

発達段階を踏まえた9年間の計画的かつ継続的な教科指導や学び方や学ぶスピードを考慮した小中学校間の円滑な接続により**学習意欲が向上**します。

2. 生徒指導の充実

発達段階を踏まえた9年間の計画的かつ継続的な生徒指導や小学校児童と中学校生徒の交流を継続的に行うことにより**心の発達によい効果**が現れます。

3. 地域学習の充実

系統的な地域学習を実施することにより**郷土を愛し誇りに思う気持ち**が高まります。

4. 教職員の意識改革

小中の教職員における**意識の違いから生まれる教科指導の進め方**や生徒指導等の**課題が解決**に向かいます。

1. 学力向上

現状

- ・中学入学後の**伸び悩み**や**英語学力の不足**
- ・学年が進むにつれ**上位層の減少**と**下位層の増加**
- ・**思考力・判断力・表現力**や**学習意欲の不足**

対策

- ・小中9年間を見通した教育の展開
- ・基礎的・基本的事項を土台に**自ら学ぶ学習**の展開
- ・全学年で**補充学習**と**発展学習**の実施
- ・小学校高学年で**一部教科担任制**・週1時間の**英語教育**の実施
- ・**体験的な学習**や**キャリア教育**の充実

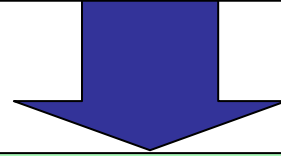
効果

- ・学力検査の**全体数値の向上**(5段階評価の4・5の児童生徒の増加、1・2の児童生徒の減少)
- ・基礎・基本を定着させ、**自ら学び自ら考える力を育成**します。

2. 生徒指導の充実

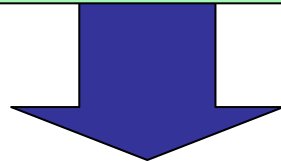
現状

- ・中1ギャップ現象
- ・人間関係力の低下
- ・基本的な生活習慣の乱れ



対策

- ・小中9年間を見通した生徒指導の展開
- ・縦割り班活動・異学年交流、部活動交流等の実施
- ・9年間の人間関係力育成プログラムの作成
- ・学校・保護者・地域の一体感のある健全育成

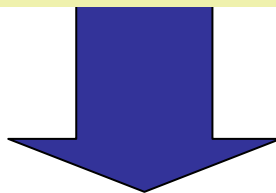


効果

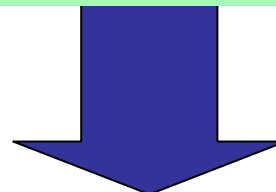
- ・いじめ・不登校の減少
- ・児童生徒の自己肯定感の向上
- ・基本的な生活習慣の改善

3. 地域学習の充実

現状 ・三条市の**文化、歴史、自然の理解不足**
・地域学習が**単発的で系統性に弱さ**



対策 ・小中9年間を見通した地域学習の展開
・三条市の**暮らしの変遷を学ぶ学習**の実施
・地域の**教育資源を生かした系統的な学習**の推進
・**ものづくり教育**や**科学教育推進事業**の成果拡大



効果 ・三条のよさを知り、**三条に愛着と誇り**を持つ
・**地域との関係強化**
・「ものづくり」、「科学」に対する**興味・関心の高まり**

4. 教職員の意識改革

現状

- ・小中9年間を見通した**指導観の不足**
- ・小中連携への**協働意識の不足**



対策

- ・**4・3・2区分で教育課程を編成（小学校5・6年生と中学校1年生が一緒の校舎で学ぶ）**
- ・小中一貫**リーダーの指名**（各中学校区2名）
- ・小中一貫**コーディネーターの指名**（各小中学校）
- ・小中**交流授業の実施**
- ・**中学校区単位**での学習指導、生徒指導等の充実
- ・小中教員が協力した**T・T授業の実施**



効果

- ・発達段階を踏まえた**系統的な指導**
- ・**小中協働**による取組の充実

小中一貫教育実施に向けての課題

1. 推進体制の確立

- (1) 小中一貫教育**推進協議会**を開催。(関係機関の連携強化、推進リーダーの育成等)
- (2) **研究開発校**を指定。(小中一貫教育課程の研究開発)
- (3) 教育委員会内に小中一貫教育**推進室**を設置。(予算確保と企画推進等)
- (4) 小中一貫教育**プログラム開発委員会**を設置。(新潟大学と共同で各教科・領域の学習内容を踏まえた一貫プログラムを作成、各中学校区でのプログラム開発等)

2. 学校設備・支援の充実

- (1) 物的整備
 - ① 小学校5年生から中学校1年生までが一緒に学べる**校舎の確保**と**小中一緒の教務室**
 - ② 小中交流活動の**スペース**(多目的スペース、空き教室等)の**確保**
 - ③ 小中交流**活動費の確保**(スクールバス、活動経費等)
 - ④ **研究開発費の確保**(研究開発指定校、プログラム開発費等)
- (2) 人的支援
 - ① **教職員の増員**(小学校英語教育、小中一貫教育のための市単独採用講師等)
 - ② 小中一貫教育**推進室による指導・支援の充実**

3. 保護者・地域への説明 と成果の検証

- (1) **広報活動の充実**（広報誌の活用、リーフレット・パンフレット等の作成）
- (2) **PTAとの連携**（中学校区単位のPTAの連携事業）
- (3) 定期的な**アンケート・学力調査・学校関係者評価**等の情報収集及び分析と指導・支援の充実

5. その他

- (1) 地域の要望や実態に応じた、**柔軟な計画の推進ときめ細やかな支援**の充実
- (2) 「**ものづくり科**」：文部科学省教育研究開発（長沢小、荒沢小、下田中）の成果の深化・拡充

4. 関係機関との連携強化

- (1) **小・中校長会**との連携
- (2) **県教育委員会・文部科学省**の連携や動向を踏まえた実施計画の作成。
- (3) **新潟大学**から人的な支援を受けた事業の推進
- (4) **小中一貫教育サミット**への参加
- (5) **小中一貫教育先進校**(地域)との交流